

先進事例 紹介

全国初 女性消防団員による合同連携実動訓練について

～女性消防団員の活動の幅を広げるために～

神奈川県 安全防災局安全防災部消防課

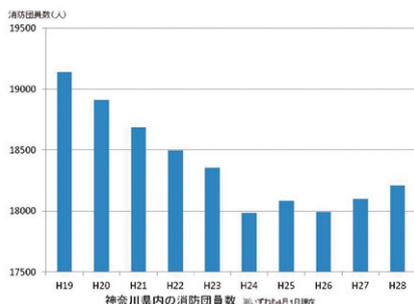
1 はじめに

神奈川県では、大規模災害に備え、県内市町村と一体となって、消防団の充実強化に取り組んでいます。その取組の一つとして、年々増加する女性消防団員の皆さんの活動の幅を広げるため、全国の都道府県で初めて、女性消防団員及び女性防火クラブ員による合同連携実動訓練を実施しましたので、御紹介します。

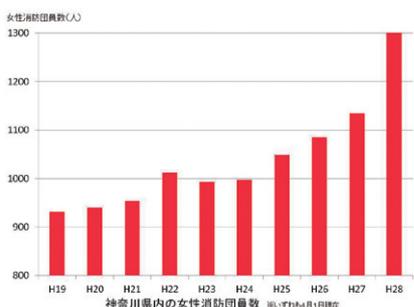
2 神奈川県の消防団の現状

本県は、全国と同様に、消防団員の減少が大きな課題となっていますが、近年は、増加へと転じつつあります。平成24年に17,983名まで減少した消防団員は、平成28年までの4年間で全国トップの228名が増加し、18,211名となっています。これは、女性消防団員の増加が、大きな要因となっています。

県内には、平成28年4月1日現在、1,309名の女性消防団員が所属しており、この4年間で、男性が83名減少する中、女性は311名も増加しています。



神奈川県内の消防団員数



神奈川県内の女性消防団員数

3 訓練実施までの経緯(これまでの取組)

首都直下地震や南海トラフ地震など、大規模災害の発生が懸念されている中、本県においても、地域防災の核である消防団を充実強化していくことは大変重要です。

しかし、県内の消防団では、サラリーマン団員が6割を超えており、平日昼間などは、参集できる消防団員に限られる場合もあります。

そこで、県は、増加している女性消防団員の皆さんに、平時の予防広報活動だけでなく、大規模災害時の救出救助活動などでも活躍していただければ、県民の命を守るために大変有効であると考え、女性消防団員の活動の幅を広げる取組を進めてきました。

(1) “女性・輝き・消防団”つながりワークショップ

平成28年2月6日(土)に、女性消防団員の消防団活動へのニーズ等を把握するとともに、県内で「顔の見える関係」を築くため、県内女性消防団員等57名によるワークショップを実施しました。日頃の活動内容や課題等について話し合う中で、女性消防団員の活動内容は消防団ごとに様々であることが分かりました。所属消防団の4割近くが女性で、男女の別なく活動している消防団もあれば、女性が入って間もないことや環境設備が整っていないことなどから、活動が限られている消防団もあります。

このように、県内の状況は様々ですが、参加者の共通の思いとしては、もっと活躍の場を広げたいということでした。そこで、県内の女性消防団員が、実際に連携して実動訓練を実施してみたらどうかという提案もありました。



ワークショップの様子

(2) 神奈川県消防操法大会での合同訓練デモンストレーションワークショップでの提案を受け、まず合同訓練デモンストレーションを行いました。平成28年7月28日(木)に開催した第50回神奈川県消防操法大会において、約3,000人の県民の前で、女性消防操法披露と併せて、女性消防団員72名により実施しました。この取組は、実動訓練に向けたよい準備になっただけでなく、消防操法大会の場で実施することで、女性消防団員活動の大きなPRにもなりました。



合同訓練デモンストレーションの様子

4 合同連携実動訓練について

こうした取組を進め、平成28年11月15日(火)に、神奈川県消防学校において、全国初の女性消防団員による合同連携実動訓練を実施しました。

この訓練は、サラリーマンが多い男性消防団員が不在の平日昼間に大規模地震が起り、木造住宅密集地で火災が発生したとの想定で行い、県内14市町から74名(女性消防団員11市町66名、女性防火クラブ員4市町8名)が参加しました。

当日は、神奈川県消防学校の訓練施設を活用し、消防学校教官の指導の下、女性消防団員及び女性防火クラブ員のみで、指揮隊、消火小隊、救護隊を編成し、災害現場の情報収集、消火、避難誘導及び救護等の一連の活動を行いました。



合同連携実動訓練の様子①



合同連携実動訓練の様子②



合同連携実動訓練の様子③



合同連携実動訓練の様子④

また、訓練に先立ち、大規模災害を想定した情報受伝達研修(トランシーバー・無線を使用した演習)や応急手当研修(心肺蘇生、三角巾による被覆などの演習)も実施しました。



情報受伝達研修の様子



応急手当研修の様子

5 今後に向けて

当日実施したアンケート結果では、訓練参加者の9割以上が、「参加して良かった。」「また参加したい。」と回答しました。

また、「所属消防団に女性が少ないため参加してよかった。」「意識の高い方が多くいたので刺激になった。同志の顔が見えるとモチベーションも上がる。」「女性も男性と同様に活動できるという気持ちを、多くの女性団員と分かち合うことができた。」などの意見があり、女性消防団員の皆さんの意識の高さが感じられました。

そこで、本県では、来年度から神奈川県消防学校で、女性消防団員等を対象とした特別教育を実施し、より一層の活動の活性化を図る予定です。

さらに今後は、女性消防団員の活性化の機運を、消防団全体の活性化にもつなげられるよう、市町村との連携を一層深め、様々な取組を展開してまいります。

例えば、平成26年度から本県と県内全ての市町村が一体となって行っている「かながわ消防フェア」の開催や、県内の消防イベント情報を一つにまとめた「かながわ消防イベントガイド」の作成、平成28年度からスタートした「かながわ消防団応援の店」登録制度(平成29年1月1日現在2,627店舗)における、更なる登録店舗の拡大などの取組を進めます。こうした取組を通じて、オール神奈川で消防団の充実強化を図ってまいります。

神奈川県消防団ホームページ：
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f440055/>



かながわ消防イベントガイド



かながわ消防フェア



かながわ消防団応援の店ステッカー